



●主な意見

項目	Aグループ
まちづくり 計画全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの活性化として、地域の取組やエリアマネジメントにより、まちづくりの収益化や自走する仕組みができればよい。そのために行政の支援が必要。</li> <li>・まちづくり計画はハード面だけでなく、ソフト面の取組も計画に織り込み、地域住民に意識づけることが重要である。</li> </ul>
都市農地 まちづくり 計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市農地まちづくり計画を策定するメリットがわからないため、これまでの実績がないのではないかと。開発基準等に対するメリットがないと、計画を策定しようとはならない。</li> <li>・手続きが省略化できるなどのメリットがあるとよい。</li> <li>・計画策定により、将来の道路を構想して、行き止まり道路を解消できるとよい。</li> <li>・個々の所有する農地は相続時期が異なるため、それぞれで計画してしまうので、道路が接続しないなどのミスマッチが起こる。行政で調整できるとよい。</li> <li>・策定要件の対象面積 3,000㎡は規模が大きいためハードルが高い。</li> <li>・農家は事前に相続税を支払うための土地を色分けしている。</li> <li>・農地の保全から、公園の整備を市民農園として公共的な緑地に代替できるとよい。</li> <li>・宅地開発では開発区域内に市民農園をつくることもできるのではないかと。その際、市民農園とするためのインセンティブがあるとよい。</li> <li>・地域の独自性を継承できるような仕組みづくりができるとよい。</li> <li>・まちづくりを主導するリーダーがいないと、都市農地のまちづくりは進まない。</li> <li>・行政について、都市計画部局と農政部局が連携して農地の保全と利用に取り組むべき。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民懇談会の意見について、農業従事者の偏った意見などと扱わず、一市民の声として、しっかりと条例見直しに生かしてほしい。</li> <li>・市民の意見をより正確に取り入れる機会がほしい。まちづくり市民会議では市民懇談会の意見を重視して検討してもらいたい。</li> </ul>

### 3 アンケート結果

#### (1) アンケート回答数

参加者	6名
アンケート回答	5名

#### (2) 参加者の分類

##### ①居住地の分布

居住地	数
西恋ヶ窪	2
並木町	1
市外	2
全体	5

##### ②参加者の年代

年代	数
40代	1
50代	2
60代	1
70代	1
全体	5

##### ③参加者の住居形態

住居形態	数
一戸建て	4
共同住宅	1
全体	5

##### ④市民懇談会を知った理由

媒体	数
市報	2
市ホームページ	2
チラシ	1
Twitter	0
全体（重複可）	5

##### ⑤第1・2回市民懇談会の参加の有無

参加の有無	数
参加	3
不参加	1
全体	4

#### (3) 市民懇談会の感想や意見

・ 条例基準の緩和を希望する。
・ 自発的なまちづくりが進むような仕組みづくりをお願いしたい。